

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3072500436
法人名	社会福祉法人 熊野福祉会
事業所名	グループホーム熊野本宮園
所在地	和歌山県田辺市本宮町上大野字田平630-1 (電話) 0735-42-1838

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2-1-2		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.6人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,480 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900円			

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		1 名	要介護2		2 名	
要介護3		3 名	要介護4		2 名	
要介護5		1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	87 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	社会保険南紀病院、小淵歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の大きな財産として重要視されている老人福祉施設に併設されているが、それに甘んじることなく、グループホーム独自の理念を掲げ、その取り組みも積極的になされている。緑豊かな恵まれた環境の中、ゆとりのある造りでホーム全体が家庭的なゆったりとした雰囲気にも包まれている。地域密着型サービスとしての意識も高く、管理者自身キャラバンメイトとして毎年認知症サポーター養成講座の実施に取り組んでおり、昨年は民生委員対象に、そして今年度は中学生を対象として講座を開催し、認知症ケアの普及活動に貢献し、地域住民の理解も得られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘を受けていた地域密着型サービスとしての理念については、さらに地域密着型としての役割を認識する中で、法人の理念とは別にホーム独自の理念を作り上げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況
	自己評価は日々の実践を見直す貴重な機会であるとの認識のもと、職員全員で協議し管理者がまとめ上げた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの事業報告や職員研修等の具体的な取り組みを報告する中で積極的な意見交換が行われている。家族代表から「遠足に家族にも呼びかけ一緒に参加して貰っては」との提案があり、実施する中で、家族の理解も深まり、家族同士の交流の機会ともなり、皆で話し合いの時間を持つ事が出来、大変有意義な取り組みとなった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	法人には福祉サービス第三者委員として相談窓口を設けている。また、重要事項説明書に相談・苦情窓口を明記し、玄関にも明示して意見等を出して貰える様呼びかけている。運営推進会議にも家族代表の参加を求めて意見表出の機会作りにも努め、出された意見については積極的に運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の繋がりが強固な恵まれた環境の中、管理者が自治会等に積極的に参画しており、餅投げ等地域の行事や祭り・運動会等の学校の行事には出かけている。また、中学生の体験学習や保育園児・小学生・婦人会等の訪問もあり、地域との交流の機会を多く持つ事が出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人が創設以来掲げている基本理念の上に、利用者の尊厳を大切にし、地域に根ざしたグループホームにと独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有できる様に玄関に掲げており、会議の中でも繰り返し話し合いを持つ中で、施設長・管理者・職員共に理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の繋がりが強固な恵まれた環境の中、管理者が自治会等に積極的に参画しており、餅投げ等地域の行事や祭り・運動会等学校の行事には出かけている。また、中学生の体験学習や保育園児・小学生・婦人会の訪問もあり、地域との交流の機会を多く持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に自己評価・外部評価を実施する意義を十分に理解しており、日々の取り組みを見直す機会と捉えて積極的に取り組んでいる。今回の自己評価についても全員で話し合いの機会を持ち、管理者がまとめ上げた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政職員・民生委員・地域及び家族の代表の参加を得て2ヶ月に1回開催しており、ホーム側より事業報告や職員研修等の具体的な取り組みを報告する中で、積極的な意見交換が行われ、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも行政担当者とは新規利用者の情報や研修情報を貰う等、相談する機会もあり連携が図れている。特に毎年地域の中で実施している認知症サポーター養成講座の開催については、行政としての助言・協力が得られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームたよりを3ヶ月に1回発行しており、行事の様子や暮らしぶりを写真を載せて報告すると共に健康状態等については面会時や電話等個々に合わせた報告を行っている。また、金銭管理については、領収書等は毎月、収支報告書は3ヶ月に1回家族宛に送付し報告している。	○	職員の異動等については、家族等の面会時に報告しているが、ホームたよりにも掲載して周知を図る事が望まれる。また、毎月の領収書送付の機会に、利用者個々の状態の変化等の記録を併せて報告される等、家族等の知りたい点を考慮しながら積極的に取り組む事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等の受付窓口については、家族に周知している。また、運営推進会議では家族代表の参加を得ており意見表出の機会となっている。今回、遠足の折に家族にも呼びかけて一緒に参加して貰ってはとの提案があり、実施する中で、家族同士の交流の機会ともなり、皆で話し合いの時間を持つ事が出来て、大変有意義な取り組みとなった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの管理者や職員による支援を継続して受けられる様に、異動を必要最小限に抑える様努めている。また、異動に際しても同敷地内の法人施設内である為、職員が時折ホームに来る等の配慮により利用者へのダメージを防ぐ努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修や調理の実習等積極的に参加しており、その研修内容については伝達研修等によりフィードバックされ全員のレベルアップが図れるシステムになっている。また、新入職員についても法人全体の内部研修が計画的に行われ、ホーム内においても段階的に育成できる体制が整っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、情報交換を行う等ネットワークづくりができており、サービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学して貰う事から始め、その場の雰囲気に慣れて貰える様にしている。入居前には実際にホームでの生活を体験して貰う事にしており、入居後についても電話等で家族との繋がりは継続できる様配慮し、安心・納得した上でのサービス利用を進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を知る中で、その得意分野において力を発揮して貰っており、昔ながらの調理や日々の気遣い等職員が学んでいる場面も沢山あり、喜怒哀楽を共にする中で、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりについて、食事やお茶の時間等ゆったり過ごす場面において本人の希望や意向を聞きだす努力をしている。また、ケース記録にも出来るだけ本人の発言をそのまま書き留めておく様にしており、その把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたってはセンター方式の一部を取り入れたアセスメントにより、本人・家族等の意向や希望を詳細に把握し、職員や必要な関係者の意見等反映したものを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりのケース記録・健康チェック等記録により1ヶ月毎に担当職員が気付き等記入するシステムとなっており、月1回のケース会議において介護計画の見直しを検討している。また、状態変化に対してはその都度、家族等関係者と話し合いの上、新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力を得られる利用者には定期的に、または盆・正月等に外泊支援を行っている。また、墓参や見舞い等特別な外出支援、医療機関の受診や入退院の送迎等移送サービスも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に定期的に往診して貰っており、毎日の健康チェック表等も情報として、必要時医師に提供する等、連携が図られる中、適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の対応については、早い段階から本人・家族・かかりつけ医と繰り返し話し合いの機会を持ち、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみを込めた会話や対応の中にも、利用者の誇りやプライバシーを損ねる事のない配慮がなされている。また、ホームだよりについても、利用者の写真を掲載している為、配布は家族等必要最小限の関係者のみに留めており、記録等個人情報の取り扱いについては、細心の注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、職員も十分にゆとりを持って接している。外出や行事参加等もその日になってから本人の意向や状態等を確認して希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元特産の馴染みの食材や自家菜園で収穫した旬の野菜を取り入れて調理する機会を多くしており、季節感を味わうと共に昔を思い出して会話が多く交わされる様にしている。また、下ごしらえや配膳・後片付け等手分けして行って貰っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後のゆったりした時間帯に、川の流れや木々の緑を眺めながら温泉入浴が楽しめる様配慮されている。背中を流して貰ったり、職員との会話も弾む中、くつろいだ気分で入浴できる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴から、得意とする分野において活躍して貰える様配慮しており、新年会等行事での挨拶、来訪者の接待や利用者への声掛け・気配り等、また、毎朝のモップかけ、菜園の世話や洗濯物たたみ等々、それぞれに張り合いや喜びのある日々を過ごせる様支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のデイサービスを利用している知人との面会・散歩・おやつのお買い物・ドライブ・園芸など、日常的に戸外に出かけられる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が鍵をかける事の弊害を理解しており、午前7時30分頃から午後6時過ぎ迄、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、法人全体で年2回避難訓練を行っている。夜間帯を想定しての訓練もあり、ホームとしての課題等についても具体的に話し合っている。管理者は地元の消防団に所属して活動しており、地域関係者にも協力を得られる様働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が作成したものを参考にしており、栄養バランスは配慮できている。また、一人ひとりの食事量・水分摂取量は個々に記録しており、きざみ食・ミキサー食等形態なども工夫して十分に確保できる様支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を多く使った落ち着いた雰囲気の造りであり、天井が高く開放感があり、大きな窓から見える景色で居ながらにして季節感を味わう事ができる。随所にソファが置かれており、思い思いに居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや使い慣れた箆笥・籐の応接セット等を本人や家族が自由にレイアウトできる様になっており、一人ひとり居心地良く過ごせる様、配慮・工夫されている。		